

歴史館まなび隊

2

鎌倉時代の善光寺

ここでは、今から700年以上前の鎌倉時代善光寺のようすを再現しています。

善光寺は信濃国だけではなく、全国からたくさんの人たちが集まる「三國一の霊場」といわれていました。善光寺のご本尊は「阿弥陀如来」といいます。阿弥陀如来は、亡くなった人びとを極楽へ呼んでくださいます。善光寺の仏さまこそ、日本に最初にやってきた阿弥陀如来と信じられていました。もっとも、この仏さまは決してだれも見ることのできない「秘仏」ですが、このご本尊をまねて造られた「前立本尊」でその姿をしのぶことができます。善光寺のご本尊をまねて全国各地で「善光寺仏」が造られ、善光寺ブームとなりました。

鎌倉時代は低温の年が続き、度々飢饉が起きました。飢饉になると人びとは争いを起こしがちです。病気もはやります。そのような中、現世に希望が持てなくなった人びとは阿弥陀如来にすがり、死後の幸せを祈ったのでしょう。

鎌倉時代の様すを描いた『一遍聖絵』という絵巻物を見ると、当時の善光寺に集まる人びとの様すが描かれています。これを参考に再現したのがこの展示コーナーです。

説明

A：善光寺の復原模型

B：パソコンでしらべてみよう。「古代中世の信濃」

C：亡くなった人をとむらう塔です。

D・E：すばながわ裾花川と木の橋

F：地獄絵図がうかびがあります。

日がしずむ夕日どきは、なにかふしぎな感覚におそわれます。浄土への道「びやくどう白道」はあなたには見えますか？

G：馬にのった武士も善光寺の入口では馬からおりなければいけません。

H：「たな店」には、わらじなどはき物、クルミ・ほし柿など日常品を売っています。

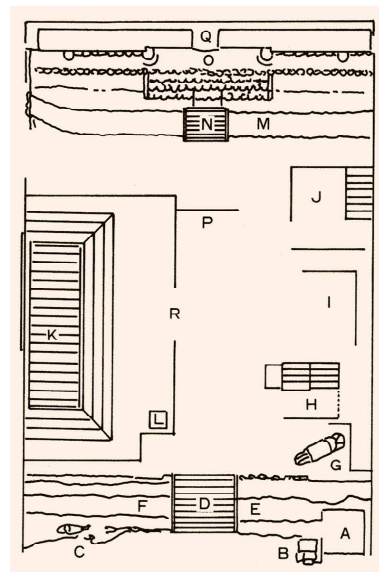
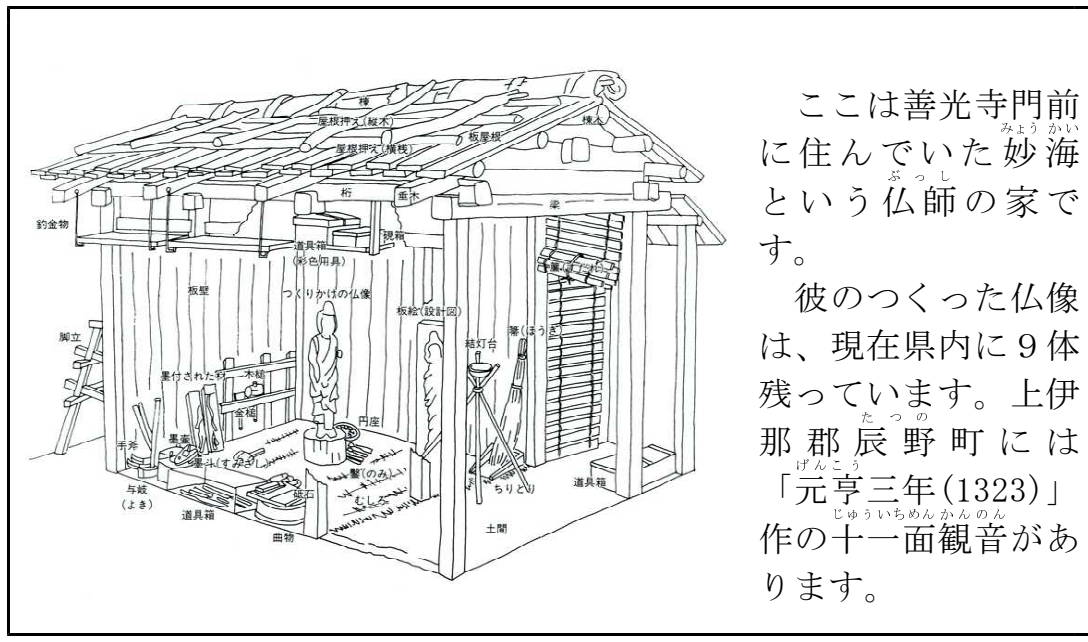


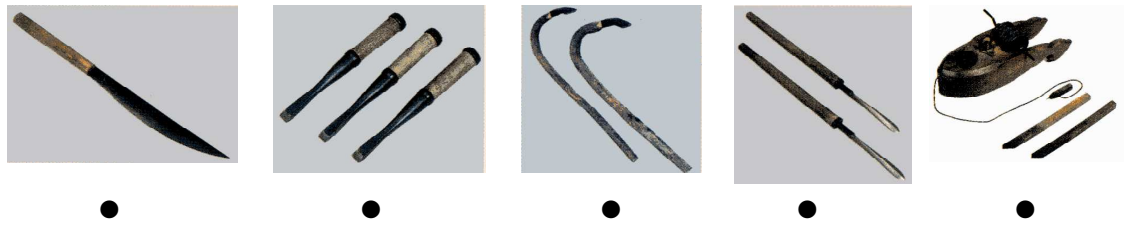
図 善光寺門前のたてもの

- I : 「町屋在家」は定期市です。月に3回開かれます。各地の特産物とくさんぶつが売られています。
- K : 「寺庵」はお坊さんの住まいです。ここで生活しながらお経を写したりしています。
縁の下をみると、お椀わんやなべがあります。これは、当時、住まいを持たず、各地をまわっていた職人や聖ひじり（各地を巡り歩くお坊さん）のものです。
- L : 五輪塔ごりんとうは石を五段にかさねた墓です。みなさんの家の近くにもあるかもしれません。
- M・N : 鐘かね鑄川がわと木橋。 O : 仁王像におうぞうと南大門なんだいもん。
- P : 「二十五菩薩来迎図」阿弥陀さまが亡くなった人をおむかえに来ています。
- Q : 正面はご本尊ほんぞんです。「善光寺如来縁起」から拡大しました。
- R : 勸請かんじょうつりしめなわ注連縄しめなわでつるして、門内に災いが入らないようにするお守りです。



ここは善光寺門前に住んでいた妙海みょうかいという仏師の家です。
彼のつくった仏像は、現在県内に9体残っています。上伊那郡辰野町には「元亨三年(1323)」作の十一面観音じゅういちめんかんのんがあります。

ここは仏像づくりの職人のいる仏師屋です。道具と使いみちを線で結んでみましょう。



- a 槍がんな
板の表面を仕上げの道具
- b 箭
板を作るために木目にくさびを入れる道具
- c 墨つぼ
柱などの木に長い直線を引く道具
- d のこぎり
木の葉形をした横びき専用の道具
- e 手斧
板の表面を荒削りする道具

使いみち

(ヒント：常設展示室出口に置いてあるブックレット『信濃の歴史と風土⑧ 住-たてる・すむ・くらす-』P15をみてね。)